

宮崎における *Hypocrea intricato-sulfurea* 菌によるホダ木の被害状況について

宮崎県林業試験場	○日	高	俊	昭
宮崎県林務部	川	越	頼	光
宮崎県林業試験場	伊	藤	英	彦
〃	近	藤	一	稔

I. ま え が き

1972年9月初め、主に県内の沿海および中央部以南の各地から黄色のボタタケによる被害が発生しているとの情報があり、急遽調査を行なったので、その概要を報告する。

本害菌は、過去において伏込地で稀に見かける程度であり、このように多発したのは本年が初である。

なお害菌の種名については、全国椎茸普及会菌叢研究所の小松氏に鑑定をうけた。

II. 調査地及び方法

調査地は県のほぼ中央に位置する児湯地区一帯をとりあげ、無作意に抽出したが、現地において聞きとりおよび実態調査を行なった。

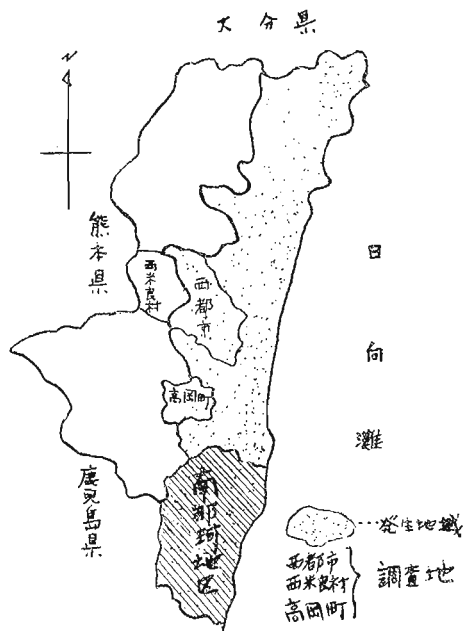
III. 発生 の 状 況

害菌は、生産者のほとんどが8月末から9月の初めにかけて発見していることから、海雨明けの7月下旬～8月にかけて発生し蔓延したものと思われる。害菌は主に原木に接種した駒の頭頂部および、原木の樹皮の割目の部分を中心に附着伸長し、感染は隣接した罹病ホダ木の接触部からのようであった。害菌の附着部位を剥皮してみると、被害のすすんだものは、一旦伸長していたシイタケ菌糸が死滅するにつれて、湿った感じの薄暗橙黄色に変色し、酸味のある腐敗臭を呈するに至る。かかる状態になるとその樹皮は、手でもって容易に剥皮できる程脆弱となる。

IV. 調査結果及び考察

現地調査を行なった伏込地9カ所の状況は、表1のとおり無被害カ所4、微害カ所1、中害カ所1、激害カ所2であった。

第1図 *Hypocrea intricato-sulfurea* Doi の多発地域および調査地



また県下各地区からの報告による発生地域は図1のとおりで、被害材積は県南（南那珂地区）の一地域の如く1,480㎥の伏込みに対して、その被害10%強に及ぶと云う報告があり、県全体ではかなりの被害量が見込まれる。

被害伏込地に共通した点は、ほとんどが購入原木で、道路周辺の平坦な地形のところ密に伏込んであり、通風が悪く、湿度の高い場所であった。

また原木は接種時の乾燥が不十分で、材の中心部は生材のものが多く、夏期の管理も徹底していなかった。

県下の被害地全般についてみると、標高の低い（0

表1 抽出伏込地調査表

47. 10. 12~14 調査

調査地	作業内容						環境						原木				H. intricato-sulfurea Dol 発生または発見の時期	被害の程度				
	伐採	玉切	接種	仮伏		本伏		林況		地況		樹種	径級	長さ	入手							
No.1	46/20	47/2下 47/3上	47/3上 47/4下	積高さ 60cm	47/5上	改良伏	三納川土際	80cm	スギ	スギ	屋敷林	不良	50	壤土	湿	クヌギ ナラ	5cm 3~7	20	120	購入	47.9.発見	中 40%
No.2	46/12下	46/12下	47/3下	—	—	ヨロイ伏	竹林凹地	65	広葉樹	モウソウ竹林	中	不良	60	植質壤土	湿	コナラ	5"~10	120	—	47.9.発見	激 70%	
No.3	46/12中	47/2中	47/3下 47/4上	スギ林 積高さ 60cm	47/5上	鳥井伏	—	80	—	スギ	密	5で改良 下不 行や	280	礫質土(砂)	やや湿	コナラ	6"~16	130	—	47.9.発見	微 3%	
No.4	46/10下	47/1下	47/2中	川端 積高さ 60cm	47/4下	盤合上井積	道路の担地	100	広葉樹	—	—	良	400	礫質土	乾	シデ	10"~25	135	(パル材)	—	—	
No.5	46/10下	47/1下	47/2下 47/3上	林道 積高さ 50cm	47/4上	鳥井伏	林道	90	広葉樹	—	—	良	350	植質壤土	乾	シデ コナラ クヌギ	5"~15	210 135 180	購入	—	—	
No.6	46/11/10	47/1下	47/3上	畑道端 積高さ 100	仮伏せ	11月本伏せ	—	—	—	—	—	良	150	礫質土	適	シデ	5"~30	210	—	—	—	
No.7	46/12上	伐採同時	47/2下	林内に60~70cmの高さの仮伏せ	70	—	—	—	—	ザツ	やや密	良	150	砂質土	適	シデ コナラ	5"~30	210	—	—	—	
No.8	46/中	47/1下	47/2中	—	—	ヨロイ伏	畑	70	竹よびスギ	—	—	不良	40	壤土	湿	コナラ	5"~8	120	—	47.8.下発見	激 98%	
No.9	46/10/15	46/12下 47/1上	47/1上	広葉樹伐跡地 積高さ 50cm	47/3下	—	広葉樹伐跡地	55	広葉樹	ザツ	—	不良	25	植質壤土	湿	コナラ クヌギ	8~16	135	—	47.9.下発見	激 65%	

~100m(300m)沿海地帯が主で、農耕地や道路近辺および人工ホタ場、杉林内等の伏込地に多発している傾向があった。

これらのことは、夏期の高湿多湿の期間が、標高の高い地帯の尾根、傾斜地より長期に亘ることが主因ではないかと考えられるが、一般的にはトリコデルマの被害についての認識不足のため、防除の徹底がなされない等栽培技術の遅れにも一因があると思われる。この害菌についての詳細はとりまとめて報告するが、害菌の発生予防対策としては、前記の調査からまず第一に原木の適期伐採、接種、伏込地の選定、夏期の完全管理等伏込環境の整備が必要である。

今後都市周辺の農村地帯で生シタケの栽培が盛んになり、また栽培規模の拡大に伴い原木事情はますます

す逼迫するので、生産者は勢い県内外からの原木購入に頼らざるをえなくなると考えるが、未知の遠隔地からの購入という諸条件の制約から、原木数量の確保のみに気をうばわれ、伐採適期を逸した原木の伐採、玉切り、しいたけ栽培にうとい木材業者からの原木購入のさい船積、貨車積による原木のムレや、粗雑な取扱いによる胴打ちの被害等も考えられる。

また労力不足や運搬経費の節減、笠木不足等適地への伏込みがなされず、安易な場所の伏込が多くなると云う傾向からして、今後この種の害菌による被害の増加が予想され、木県のシタケ栽培そのものを危機に落しおろかねないので、伏込地における栽培管理の徹底と悪性害菌防除についての組織だった指導が要望される。